

[事業報告]

「学習サポート教室」に関する学生の認識についてのアンケート調査と考察 ～2020, 2021年度電気工学科在籍者を対象として～

¹伊藤雅浩、²山本頼弥

¹帝京平成大学健康メディカル学部医療科学科

²常葉大学経営学部経営学科

A Questionnaire Survey and Discussion of Students' Perceptions of "Learning Support Classrooms" -Targeting Electrical Engineering Department students in the 2020-2021-

Masahiro ITO, Raiya YAMAMOTO

Department of Medical Course, Faculty of Health and Medical Science, Teikyo Heisei University

Department of Business Administration, Faculty of Business Administration, Tokoha University

Abstract

We conducted a questionnaire survey among students belonging to the Department of Electrical Engineering, Faculty of Engineering, Sanyo-Onoda City University between January 2021 and June 2021 regarding the use of learning support classroom. We asked 196 students and 188 (96%) responded. Forty-three students had used the service and 95% of them said that it was effective. Twenty of these students used the service only once, and it appears that they asked friends for advice on assignments and only used the service when there was a problem that they just couldn't answer. The analysis suggests that the students who used the service in this way generally used it as expected. On the other hand, as for the students who had not use the Learning Support Classroom, the majority of them seem to have solved their problems by asking their friends. However, when analyze by grade group, about 50% of the students in the upper half of the grade band answered that they had no problems with their studies, while only about 14% of the students in the lower half of the grade band answered that they had no problems. For these students, even though they did not think they had no problems, they felt that going to tutoring was a hassle or a chore, or that the hours were not convenient. In order to increase the number of users, it may be important to continue to consider the days that the room is open, to make announcements such as the orientation, and to increase opportunities to get to know the assistant professor.

Keywords: Learning Support Classrooms, Facts and effectiveness of Learning Support Classrooms, Learning Questionnaire

キーワード: 学習サポート教室、学習サポート教室の実態と効果、利用アンケート

1. 背景

初等中等教育を含んだ基礎学力を担保するために、リメディアル科目を設け始めている大学が増えている。北米では、全学生を対象とした学習支援が1970年代から行われている。欧米での学習支援は、書く力、数的な能力を育むための①アカデミックスキル育成プログラム、学習支援室やライティングセンターにおいて授業外に学習相談ができる②学習支援、③教材の提供、大学生活にかかわる④学生支援、⑤奨学金制度などを設けている¹⁾。ここでの「学習支援」は、「学生が自主的に問題解決を行い、自分の知見を加えて発信するという学習活動全般を支援するための施設とサービス・資料を提供する」という図書館や、学習支援センターが実施するラーニング・コモンズ(学習支援空間)の意味合いが強い²⁾。

例えば、カリフォルニア大学サンタクルーズ校では、学生の基礎学力を向上させるために、補助教育(複数名)による対策と、ピア学生(単位取得した在学生・卒業生)による個別指導を含むLearning Support Servicesプログラムの効果を研究している³⁾。補助教育を利用した学生は、成績向上につながったが、4年間で卒業できる学生数の改善とは関連しなかったようだ。それに対して、個別指導に参加した学生は、参加しなかった学生よりも、成績は下がった。これは、利用した学生はやる気があり、苦労したクラスで個別指導を利用した可能性があるためだと考えられている。また、大学への定着率の向上(中退率の低下)には成果があり、大学によっては卒業率の向上に効果がある可能性があることを示唆している。

日本でも、多くの大学図書館が取り入れている、また、「学習サポート教室」のような名目で、書く力、発表する力を養えるラーニング・コモンズに近い取り組みを行うシステムも多数存在している⁴⁾⁻⁸⁾。さらには、本学でも実施しているように、基礎学力の向上のために、教員または学生が個別に指導する大学もある⁹⁾⁻¹²⁾。(2022年4月4日にGoogleで「学習サポート教室 大学」で検索し、最初に出てきた9大学)

山陽小野田市立山口東京理科大学でも学習支援の一環として、「学習サポート教室」を開講している。学習サポート教室では、「数学や物理、化学といった基礎科目の学びを、個々のレベルに合わせてサポートする場所です。授業で十分理解できなかったことがあるといった相談に、アドバイザーが丁寧に応じます」(学習簿・履修の手引き)や「『高校で学習していない分野がある』『授業で理解できないところがあった』等の不安を解消する強い味方が学習サポート教室です。教員の個別指導やグループ指導を通し

て、授業で理解できなかった点や疑問を解決し、知識を着実に身につけていきます。」(大学ウェブページ)といった説明のもと、授業で分からなかった箇所がある学生に対し、各学科の助教・助手が個別学習支援を行う。しかしながら、リメディアル科目の特徴を持ちつつ、論理だった計算の流れを記述する方法、高等教育において、理解できなかった場所を個別指導したり、初等中等教育ではあまり実施されていないであろうレポートの書き方を指導したりする場所にもなっている。また、電気工学科における学習サポート教室では、個別対応も含めて実施しており、自習室としても利用可能である。

上記のように幅広くサポートしようとしていたが、来るべきと教員が判断しうる学生が利用していなかったケースも多かった。そういった中で、学習サポート教室に関するアンケートが、2019年度より、事務部において実施されている。しかし、2学部4学科の集計であり、電気工学科の学生の利用状況が把握できていない。そこで、電気工学科の学生に焦点を当てて、分析をすべく、2020、2021年度に在籍していた1~4年生を対象に、2021年1月から2021年6月の間に1対1でアンケートを実施することとした。

特に知りたいことは、以下の3つである。

- ①利用している学生は、なぜ常連になったのか
- ②1回しか来なかった学生は、なぜ1回なのか
- ③来たことがない学生は、なぜ利用しないのか

したがって、これら3つを、アンケートと、事後インタビューにより調査し、この調査に基づいた学習サポート教室に対する学生の考え方を分析することを目的とした。本稿では、この分析結果について報告している。この結果から授業を理解できないでいる学生が、学習サポート教室を利用しないまま、成績が悪化していつてしまうことを抑えることができるのではないかと、ひいては、退学者対策にもつながってくれるのではないかと考えた。

2. 実施概要

2.1 調査方法

2020、2021年度に電気工学科に在籍した1~4年生に対してアンケート調査を実施した。

まず、アンケート同意書について説明し、データ取得・対外的な報告に関する同意を得る。回答中に拒否することも可能である旨は、記載されている。同意書の項目は、「①本アンケートの目的は学習サポート教室の運営に関する検討を行うためのデータ収集です。②収集させていただいたデータは回答者が分かるように学籍番号・氏名で管理させていただきますが、集計する際には個人が特定できな

い形で集計いたします。③また、収集させていただいたデータは電気工学科の教員が閲覧する場合があります。④分析結果は学内紀要などで研究原稿もしくは事業報告として対外的に報告させていただくことも予定しております。」としている。

次に、質問がまとめられたアンケートに回答させる(複数回答可もある)。さらに、必要に応じて回答内容について事後インタビューで確認を取る。インタビュアーとして、第一著者が一人で行い、聞き取りに一貫性が出るようにしている。

2.2 アンケート項目

2.2.1 利用学生への設問

利用経験のある学生には、なぜ利用したかを調査するために、以下に示す6つの設問に回答させた。(1)学年、(2)希望コース、(3)今まで学習サポート教室をどの程度利用したか、(4)なぜ学習サポート教室を利用したのか、(5)来た効果があったか、(6)1度しか利用していない学生は、なぜ1度しか利用しなかったのか、(7)総合的な満足度

2.2.2 未利用学生への設問

同様に、未利用の学生には、なぜ利用しなかったかを調査するために、以下に示す6つの設問に回答させた。(1)学年、(2)希望コース、(3)なぜ学習サポート教室を利用しなかったのか、(4)どのようにしたら学習サポート教室に来ようと思えるか、(5)学習サポート教室の説明を受けて今後利用してみようと思ったか(3)で学習サポート教室について知らないと答えた学生のみ)、(6)要望・意見など

3. アンケート集計結果と考察

この方法で、延べ196名に回答を求めたところ、188名から回答が得られた。(※途中から利用するようになった学生には、これまで来なかった理由と、来た理由を聞いているために、2名としてカウントしている。)利用学生の(4)と未利用学生の(3)は複数回答可にしており、①第1位のみを集計と、②複数回答全部を集計をしている。こうすることで、①アンケート対象学生が1番感じていること、②少しでも感じていることを拾い上げることを狙っている。

3.1 利用学生の集計

3.1.1 設問(4)の集計結果

1度でも利用したことがある学生は43名おり、全体の約23%となった。利用したことがある学生を対象に、利用した理由第1位の結果を表1に示す。「授業の内容でわからない問題があった」という回答が33件で第1位となり、学習サポート教室の意義に沿った学生が利用していることがわかった。次いで、第2位が「その他(友達と利用したため、課

題を進めるため、テスト前だったため、アプリの使い方を教えてもらうため)」、第3位が「授業内容をより理解を深めるため」となった。しかし、実際に対応したことを思い返すと、第2位、第3位の理由もわからない問題があっただけであるように思えた。「より理解を深める」というのは、アンケート実施側の意図としては、「自分で買ったテキストの問題や、応用問題などを理解したい」というために作成した回答であったが、授業中に理解できなかった問題があった、それを教えてもらうことで、理解を深めるととらえられてしまっていた。実際に、事後インタビューを実施したことにより、「授業の内容でわからない問題があった」に変更した学生もいた。教員側からすると、教科書の例題のようなものは、基礎的な内容だと思っけていても、学生にとっては、応用問題にみえることもあるのだろう。以上より、ほとんどの学生がわからない問題があったために、学習サポート教室を利用したと言う結果になり、意図に添った利用がなされていることが明らかになった。また、「教員に勉強の習慣づけをするように言われたため」が2学年で一人ずついた。しかし、チューター教員に学習サポート教室を利用したほうがよいとアドバイスされているにもかかわらず、利用していない学生もいた。

次に、利用した理由の複数回答させた結果全体を見てみる(表2)。第1位の「授業内容でわからない問題があった」が37件となり、こちらの集計でも、表1での集計と同様の結果となった。第2位は、「授業内容をより理解を深める

表1 利用した理由(第1位のみ)

項目	回答数
授業内容をより理解を深めるため	2
授業の内容でわからない問題があったため	33
授業内容以外の内容の理解をより深めるため	0
資格試験の内容でわからない問題があったため	1
自主的に勉強の習慣づけをするため	1
仲の良い教員がいるため	0
教員に勉強の習慣づけをするよう言われたため	2
(新型コロナ前) コーヒーが飲めるため	0
その他	4
計	43

表2 利用した理由(複数回答)

項目	回答数
授業内容をより理解を深めるため	13
授業の内容でわからない問題があったため	37
授業内容以外の内容の理解をより深めるため	1
資格試験の内容でわからない問題があったため	1
自主的に勉強の習慣づけをするため	7
仲の良い教員がいるため	9
教員に勉強の習慣づけをするよう言われたため	3
(新型コロナ前) コーヒーが飲めるため	3
その他	5
計	79

表3 年間利用学生数

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
利用者数	240	232	42	88	34
1年生	8	98	6	8	2
1年生の割合	3.3	42.2	14.3	9.1	5.9

ため」が13件となったが、前述のインタビュー内容のとおり、分からない問題があっただけであると推測される。

一方で、第3位は、「仲の良い教員がいるため」の9件となった。43名の中で9名の学生が、大なり小なり考えているので、担当者について、交流をしたことがあることも重要であろう。助教は、1年IV期(1科目)や、2年前期(2科目)から学生の授業に顔を出すようになるため、これまでの利用学生の多くは、2年生以上であった。学習サポート教室(伊藤、橋國、山本(頼))と時間割表に記載されていても、1年生にとっては、全く顔も名前も知らない存在であり、利用するハードルが高いのではなかろうか。さらに、学習簿・利用の手引きにおいては、アドバイザーと記載されており、助教とは別に、アドバイザーがいると誤解していて、質問などに来れなかったりしたのではないかと考えられる。令和2年度には、アンケートを実施したことや、令和3年度には、助教がガイダンス、オリエンテーション、キャリア基礎などで宣伝を行うことで、助教と顔を合わせる機会が多かったり、必修科目で宣伝してもらったりした結果、利用学生が例年に比べて急増した(表3)。さらに、令和3年度の利用学生は、延べ232名のうち延べ98名と、42%が1年生の利用となった(利用学生数は、14名)。全体的に利用学生が増えたのは、月曜日の5限に変更したことも大きな要因の一つであると考えられる。1年生が急増したのは、月曜日の5限は、必修の後で利用しやすくなったことが考えられる。令和4年度では、担当者がオリエンテーションでしか話す機会がなかったこと、後期から木曜日に変更したこともあり、1年生の利用学生は、減少した可能性がある。より多くの機会に、助教自らが「学習サポート教室」を紹介することで、学生にとって利用しやすい環境になったのではないかと考えられる。

3.1.2 設問(5)の集計結果

表4に示したように、42名(98%)の学生が、利用したことに効果があったと回答し、1名のみが効果がなかったと回答した。その理由を事後インタビューにより確認したところ、「教員に声をかけてもらえなかった」であった。わからない問題を聞きに来ていた学生に対しては、こちらからアプローチをかけることが重要であることが示唆されている。

表4 利用効果

項目	回答数
あった	42
どちらともいえない	0
なかった	1
計	43

著者らが担当してからは、新規利用学生に対して、「質問があれば、挙手、目配せなどのサインをしてください」と伝えている。幸いにも、このようなことが起こりえないよう努力しているので、すべての学生が、効果があったと回答している。

3.1.3 設問(6)の集計結果

1度しか利用しなかった理由を表5に示す。「1回の相談で解決した」という学生が大多数を占めている。学生の単発の相談にも、応えられていることが示唆されている。一方で、2名の学生が「教員の教え方が悪い」と回答した。このうち1名は、設問(5)の効果がなかったと回答した学生である。もう1名は、第1著者が1年次に少しくつめに注意を与えてしまったことが原因である(この学生は、2年生の講義で、第1著者が講義において個別に指導してから、改めて利用するようになった。)また、「その他」として、「時間が合わない」(アンケート実施時の実施日は、木曜日の14時40分～16時10分)と「学生がいないから入りづらい」という回答だった。当時の時間帯は、他の授業も少なく、学生は、アルバイトを入れてしまうようだ。当時利用学生が少なく、教室に助教が8名というのは、学生は入りづらいであろう。

3.1.4 設問(7)の集計結果

最後に、全体の満足度の点数を表6に示す。大半が、4.5点と総合的に満足しており、平均4.24点となった。3点と回答している学生は、効果があったと回答しているにもかかわらず、このように回答している。これに関しては、追加情報もなく詳細な分析は行えていない。1、2点の2名は、設問(6)で、「教員の教え方が悪かった」と回答した2名であるので、合点がいく。

表5 1回しか利用していない理由

項目	回答数
1回の相談で問題が解決したため	16
納得のいく相談結果が得られなかった	0
対応の待ち時間が長かったため	0
教員の教え方が悪いと感じたため	2
その他	2
計	20

表6 満足度

点数	回答数
1	1
2	1
3	6
4	12
5	23
計	43

3.2 未利用学生の集計

3.2.1 設問(3)の集計結果

利用しなかった理由第1位の結果を表7に示す。第1位は、「友達に課題について聞けるため」の58名、第2位は、「特に困りごとがなくいく必要がないため」の31名、第3位は、「正直に言うと学習サポート教室に行くのが面倒であるため」の19名となった。

次に、表8に複数回答させた結果全体を示す。第1位は、「友達に課題について聞けるため」の100名、第2位は、「正直に言うと学習サポート教室に行くのが面倒であるため」

の59名、第3位は「特に困りごとがなくいく必要がないため」の56名となった。

来たことない学生のうち、成績が高くて来ないのは問題がないが、一方で成績が低くて利用すべき学生が「面倒である」と回答していたらそこについてはケアが必要である。

そこで、成績(GPA帯)と回答を紐付けてクロス集計した結果を表9, 10に示す。GPA帯はそれぞれAが3以上4未満、Bが2以上3未満、Cが1以上2未満、Dが0以上1未満とした。

表9は、第1位の回答の集計結果であり、どの成績体の学生も、「友達に課題について聞いているため」の解答が高かったので、友達と相談しながら、課題を考え、テストに臨んでいるようである。第2位としては、「特に困りごとがな

い」は、A, B帯に94% (31名のうち29名) おり、少し安心ではあるが、C帯の2名は、向上心が少し足りないのかもしれない。「困りごとがなくいく必要がないため」と回答しているのは、成績が高い層にあり、大きな問題ではない。

しかし、残念ながら純粋に切磋琢磨している学生ばかりであるとは、経験上言い切れない。C, D帯の学生は、答えを写させてもらっているだけの可能性がある。そこで、複数回答の他の回答も踏まえて、詳細に分析してみた(表10)。複数回答が可にも関わらず、C, D帯は「困りごとがなく行く必要がない」と回答している学生が少ない。約86% (37名中32名) の学生は困っていることを自覚しているにも関わらず、学習サポート教室を利用しないのは、やはり写させてもらっているだけの可能性が高いことが示唆されている。

さらに、面倒と億劫の微妙なニュアンスの違いが成績帯でことなるように感じられた。A, B帯は、面倒ではあるが、億劫とは感じていない学生がおり、C, D帯には、億劫と感じる学生が多い傾向にある。少なからず、低成績帯にて、「学習サポート教室に行くのが面倒であるため」「教室やZoom部屋にはいるのが億劫なため」という回答があり、行く必要があることを認識はしている学生が多いこともわかった。学習サポート教室のためだけに、来るのが面倒であるという自由記入も見られた。これらの学生に効果的な何かがあれば、利用学生が増え、成績の底上げにつながると思われる。

少数ではあるが、「チューター教員などに相談している」学生がいることもわかった。「学習サポート教室について知らなかった」という学生は、ガイダンスを全く聞いていないのだろう。さらに、学習サポート教室と、上級生や大学院生が学業面・生活面の相談に乗るピアサポートと勘違いしている学生が数名いた。先輩に学業の相談をしても解決しなかったから、学習サポート教室は、効果がないと思ったと回答した学生には、学習サポート教室の詳細を説明した。

「その他」には、日時が合わないという意見が多く、講義の少ない木曜日には、アルバイトを入れてしまうとのことだった。

3.2.2 設問(4)の集計結果

「どうすれば学習サポート教室に来ようと思えるのか」の回答を表11に示す。「学習サポート教室に訪問すると最終的には課題の答えにたどり着く」という打算的な考えが第1位で50名、「チューター教員などの指示により強制的に利用しなければいけないようにする」が第2位で42名、「その他」が、第3位24名がいた。しかし、「曜日変更」、「予約制」と回答項目にあるにもかかわらず、「その他」を選択し、「曜日が合わない」や「予約制にする」と回答した学生が多

表7 利用しなかった理由(第1位のみ)

項目	回答数
特に困りごとがなくいく必要がないため	31
友達に課題について聞けるため	58
教員(助教)を知らず声をかけにくいため	10
正直に言うとう学習サポート教室に行くのが面倒であるため	19
教室やZoomの部屋に入るのが億劫なため	6
授業担当が実施している補講に参加しているため	0
オフィスアワーを利用して質問しているため	0
チューター教員など学習サポート教室担当教員以外に相談できるため	6
学習サポート教室について知らなかった	5
その他	10
計	145

表8 利用しなかった理由(複数回答)

項目	回答数
特に困りごとがなくいく必要がないため	56
友達に課題について聞けるため	100
教員(助教)を知らず声をかけにくいため	25
正直に言うとう学習サポート教室に行くのが面倒であるため	59
教室やZoomの部屋に入るのが億劫なため	28
授業担当が実施している補講に参加しているため	6
オフィスアワーを利用して質問しているため	4
チューター教員など学習サポート教室担当教員以外に相談できるため	13
学習サポート教室について知らなかった	7
その他	27
計	325

表9 成績帯別利用しなかった理由(第1位のみ)

理由	A	B	C	D
特に困りごとがなくいく必要がないため	8	21	2	0
友達に課題について聞けるため	14	32	10	2
教員(助教)を知らず声をかけにくいため	2	5	3	0
正直に言うとう学習サポート教室に行くのが面倒であるため	4	8	5	2
教室やZoomの部屋に入るのが億劫なため	0	1	5	0
授業担当が実施している補講に参加しているため	0	0	0	0
オフィスアワーを利用して質問しているため	0	0	0	0
チューター教員など学習サポート教室担当教員以外に相談できるため	1	2	3	0
学習サポート教室について知らなかった	1	2	2	0
その他	1	6	3	0
計	31	77	33	4

表10 成績帯別利用しなかった理由(複数回答)

理由	A	B	C	D
特に困りごとがなくいく必要がないため	16	35	4	1
友達に課題について聞けるため	22	59	17	2
教員(助教)を知らず声をかけにくいため	6	12	6	1
正直に言うとう学習サポート教室に行くのが面倒であるため	7	31	19	2
教室やZoomの部屋に入るのが億劫なため	3	14	9	2
授業担当が実施している補講に参加しているため	2	4	0	0
オフィスアワーを利用して質問しているため	1	2	1	0
チューター教員など学習サポート教室担当教員以外に相談できるため	3	6	4	0
学習サポート教室について知らなかった	2	3	2	0
その他	2	18	7	0
計	64	184	69	8

表11 どうすれば学習サポート教室利用するか

項目	回答数
学習サポート教室の実施時間・曜日を変更する	18
聞きたい内容に基づいて予約制を採用する	11
チューター教員などの指示により強制的に利用しなければいけないようにする	42
学習サポート教室に訪問すると最終的には課題の答えにたどり着く	50
その他	24
計	145

かったので、再集計すると、「日時を変更する」が第3位の26名となった。

やはり、課題の結果が成績に直結しているの、答えを知らないのならば利用する価値がないと考えてしまっている学生が多いことは、相談に乗るという基本的な方針にはやや反している結果となってしまった。また、第2位として、「チューター教員などの指示により強制的に利用しなければいけないようにする」とあるが、学習サポート教室には、そういう強制力はない上に、チューターに行きなさいと言われた学生も、利用していないのが現状である。

そこで、時間変更や、予約システムを考えてみるのも利用学生を増やす一つの方法なのかもしれない。2021年度と2022年度の前期は、月曜日に変更したにも関わらず、利用したことない学生が、来たことはなかったの、成績が振るわない学生に関しては、強制力を持たせてもいいのかもしれない。

予約システムを導入することによって、お互いの時間が合わせやすくなると考えられる。実際に、2022年度は、学期中はメール、長期休暇中は、Moodleを活用した予約制にしたら、予約制以前から利用している4名の学生ではあるが、時間外に個別利用するようになった。このようにお互いの時間を調整したやり取りが可能であった。このシステムを、利用したことがない学生に、周知することができれば、来るべき学生の利用促進につながるかもしれない。

3.2.3 設問(5)の集計結果

学習サポート教室について知らないと回答した学生に対してのみ、学習サポート教室の説明をし、「学習サポート教室に来ようと思ったか」という設問をしたところ、6名の学生が「利用してみようと思った」、「1度くらいは顔を出してみようと思った」と回答したが、2022年4月の段階で、利用した学生はいない。また、「利用しない」と回答した学生は、GPA帯がAであるため、利用する必要はないのであろう。

4. 考察を踏まえた担当者としての所感

4.1 利用学生の学習技能向上に向けて

学習サポート教室を担当したものとして、利用学生をみると、黒板の複写はできているようである。学習サポートにて、黒板を利用して、問題を解くヒントを書いていると、記述はできている。計算ミスをしたために、欄外に

メモ的に書いた計算や、口頭で与えたヒントは、眺めているだけ、聞いているだけ、記述できないことが多い。つまり、利用者は、記録すべき情報の整理ができず、自分なりの言葉でまとめる能力が低い傾向にあるのではなかろうか。さらに、利用学生の多くは、計算間違いを多発しているように見受けられる。そういう学生は、途中計算を全く別のところで書いたり、書いたそばから消したりしてしまっている。

こう言ったことも含めて、自分で、論理的に立式して計算を解いていくことに、苦手意識を感じていることにつながっているのではないか。これに関しては自分なりの言葉でまとめたノート・メモを取ることができないという話に関連していると考えている。これは、論理的な考え方ができてないことのあらわれであり、報告書やレポートを書くことにも役立つ。ノートやメモの取り方も教える必要があるのではないか。桃山学院大学におけるリメディアル科目のアンケート¹³⁾では、ノートの取り方、メモの取り方を教わっていないという学生が半数以上を占めている(各44%、81%)。変なところで途中計算してしまったりする学生には、丁寧に、一つの作業ずつ、しっかりと書くべき場所に書くように指導している。

1例として、電気工学科の学生として、科目担当者のオフィスアワーだけでなく、学習サポート教室における重点サポート科目として、電気回路1, 2をすることになった。授業内容を踏まえた指導をするために、科目担当の先生から、講義資料と課題の解答を共有してもらった。これのおかげで、途中計算を含めて、論理的な流れに沿った計算を書くための指導がしやすかった。

教員が途中計算などをメモ程度に書いて、消してしまうのも悪影響を与えるのではなかろうか。改めて、より丁寧な記述をする必要があるのではないか。さらに、教員も途中計算が必要だし、計算ミスすることを理解してほしい。

4.2 利用者との意識のすり合わせに向けて

前節のことと関連するが、自分でポイントを整理できていないことが多いので、「どこがわからないのかわからないから、質問がわからない」という声も、よく耳にする。また、背景にあるように、ウェブの文面だと、すぐに解決という印象を与えてしまうので、ガイダンス等で、学習サポート教室を担当するものとして、学生に伝えることで、互いの意識をマッチングする必要があった。

そこで、オフィスアワーの利用にも活かせるように、学習サポート教室にて、「質問の仕方」も教育することで、上位学年の専門性が高い講義については、オフィスアワーを利用するように促せる。

4.3 利用効果

3.1.3で43名中42名の利用学生が、効果があったと回答

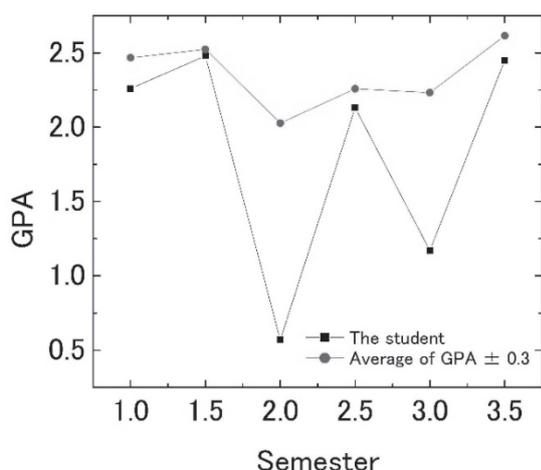


図1 学生の成績推移

していたが、体感だけでなく実際に学習的な効果があったか確認するため、許可が取れた1名を対象にGPAの変化を追った。図1には該当学生(1年次GPA2.25)のGPAと、1年次のGPAが1.95～2.55(2.25±0.3)の範囲である学生たちの平均値の変化をプロットしている。縦軸がGPA、横軸が学年を示している(例えば、横軸が1.0の場合は1年前期のGPA、2.5は2年生後期のGPAである)。

基礎学問を学ぶ1年次は、2.26を担保していたが、専門科目を学ぶ2年前期には、すでに勉強についていけなくなり、同成績帯の学生に比べて、GPAが急落した。後期から学習サポート教室を利用しこの成績帯の学生に追いついた。専門性が高まる3年前期には、不運なことにコロナ禍で利用できなくて、成績が再度、落ちてしまった。特筆すべきは、2年前期ほど落ちることはなかったことである。これは、学習サポート教室を利用したことにより、自分で学習をする習慣や方法はある程度は習得していたと考えられる。3年後期には、再び利用を開始し、GPAが同成績帯に追いついた。3年次の利用頻度は、2年次より少なかったため、やはりある程度勉強の習慣づけができていたと考えられる。

ただし、今回のデータでは教員と一緒に問題を解いたために課題正当率が上がり、GPAが上昇したことを否定することはできない。この点については、4.1、4.2に関連して、自身で問題について考えることができるようになるのが重要である。この点に留意して、引き続き学習サポート教室では、わからない問題を自身で考えられるように指導していくことが、必要があると感じている。

5. まとめ

本稿では、学習サポート教室に関するアンケートの集計結果と分析について報告し、また、それに関連した学習サ

ポート教室担当者としての所感について述べた。

学習サポート教室について、アンケートを実施したところ、96%の学生から回答が得られた。来たことがある学生は、授業で分からなかったことを解決するために来ており、95%の学生が、効果があったと満足していた。

また、1度しか利用していない学生は、基本的に友達と相談しており、どうしてもわからない問題があったときに利用したようである。

また、来たことがない学生は、友達に相談したりすることで解決しているようであった。

低成績帯においては、複数回答可にしたことで、困っている学生が一定数いることがわかった。さらに、複数回答可とした理由の中で、低成績帯では、「学習サポート教室に行くのが面倒であるため」という来そうな学生がいるのもわかった。これらの学生に効果的な何かがあれば、利用者が増え、成績の底上げにつながると考えられる。「面倒」「億劫」と思っている学生を来させるような強制力は学習サポート教室にはないので、現状では端的な解決が難しい部分である。しかし、行くことを強制されれば行くかもしれないとアンケートに回答している学生もそれなりにいるため、強制力をもたせることも解決策のひとつとして候補に挙げてもよいと思われる。

友達の答えを写すだけでなく自分で理解することが必要であるが、それは学習サポート教室の意義をどうとらえるかに依存する。友達の課題の解答を見ながら解けたことを、わかったととらえる学生がいるとすると、その学生は利用しない。

利用者を増やすためには、他の授業との兼ね合いを考慮した開講日を考慮したり、ガイダンス等で助教によるアナウンスを強化したり、さらに、担当する助教を知る機会を増やすなどの引き続き検討していくことが重要であると考えられる。これらを踏まえて、今後の学習サポート教室の運営を議論するときの材料となることを願っている。

6. 謝辞

電気工学科の諸先生方には、ご多忙中の折、調査結果などをご確認いただき、この場をお借りして、御礼申し上げます。

7. 参考文献

- 1) G. Kerstiens, Proceedings of the 15th and 16th Annual Institutes for Learning Assistance Professionals, 48.
- 2) 米澤誠, CA1603 - インフォメーション・コモンズから

- ラーニング・コモンズへ:大学図書館におけるネット世
代の学習支援 / 米澤誠 | カレントアウェアネス・ポータ
ル, <https://current.ndl.go.jp/ca1603>, (accessed 4 April
2022).
- 3) B. Balzer Carr and R. A. London, *Journal of College
Student Retention: Research, Theory & Practice* **21** [1],
78 (2019).
- 4) 学習サポート教室 | 学習支援オフィス | 教育支援総合
センター | 学生生活 | 北翔大学, [https://www.hokusho-u.ac.jp/studentlife/supportforedu/
studysupport/supportclass/](https://www.hokusho-u.ac.jp/studentlife/supportforedu/
studysupport/supportclass/), (accessed 4 April 2022).
- 5) 学習サポートセンター | 尚絅学院大学,
https://www.shokei.jp/institution/learning_support/,
(accessed 4 April 2022).
- 6) 学習支援 | 学生サポート | 桃山学院大学,
<https://www.andrew.ac.jp/campuslife/support/learn/>,
(accessed 4 April 2022).
- 7) 学習支援 | :: 法政大学, [https://www.hosei.ac.jp/
campuslife/support/shien/?auth=9abbb458a78210eb174
f4bdd385bcf54](https://www.hosei.ac.jp/
campuslife/support/shien/?auth=9abbb458a78210eb174
f4bdd385bcf54), (accessed 4 April 2022).
- 8) 学習サポート室予定表 | 芝浦工業大学,
[https://www.shibaura-it.ac.jp/campus_life/class/learnin
g_support.html](https://www.shibaura-it.ac.jp/campus_life/class/learnin
g_support.html), (accessed 4 April 2022).
- 9) 学習サポートセンター, [https://www.dendai.ac.jp/about/
campuslife/study_support/index.html](https://www.dendai.ac.jp/about/
campuslife/study_support/index.html), (accessed 4
April 2022).
- 10) 学習支援室, [https://www.meiji.ac.jp/learn-s/
index.html](https://www.meiji.ac.jp/learn-s/
index.html), (accessed 4 April 2022).
- 11) 学習サポート, [https://www.sus.ac.jp/academics/
support/](https://www.sus.ac.jp/academics/
support/), (accessed 4 April 2022).
- 12) 学習サポートセンターについて / 学習サポートセンター |
文京学院大学 - 東京都・埼玉県, [https://www.
u-bunkyo.ac.jp/center/learning/about.html](https://www.
u-bunkyo.ac.jp/center/learning/about.html), (accessed 4
April 2022).
- 13) 辻洋一郎, 桃山学院大学総合研究所紀要 **35** [3], 31
(2010).